

たくさんの想い、いくつもの工夫が生活に彩りを与える

1. 珪藻土塗りの壁・和室への扉

玄関・珪藻土の壁はお施さま自らの手で。横の障子は和室への入口、遊び心と玄関から直接お客様を招き入れる実用性を合わせ持った玄関スペース。

2. 無垢の床・吹き抜け

カラマツ無垢の床。ふしのあるまま、ありのままの姿を使う。床のやわらかく暖かい感触を楽しんで、自然のぬくもりを感じて、自然と時間を楽しむ。

3. エスニックな雰囲気

お客様希望のエスニックな雰囲気のタタミの間。照明は行燈を思わせるような工夫をして。

4. スノコ状の二階廊下

無垢の木をつかって、木のぬくもりを踏む、そして空間を広くみせる。夕日と照明でスノコが照らされ、その下には光と影の織りなす世界が広がる。

5. 間仕切りのない空間

寝室から眺め、吹き抜け空間を超えて向こうの部屋まで。ライフスタイルの変化にともなって後から仕切って使うこともできる。家族の気配を感じられる空間。

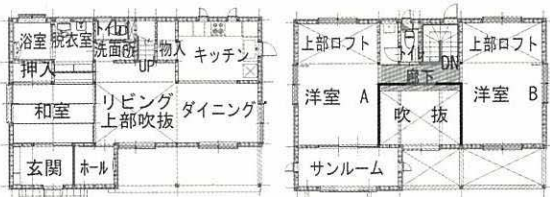
6. ロフト・寝室

二階のロフト、板張りの勾配天井。木の香り、空間の妙を感じながら過ごす時間。子供の遊び場に、書斎スペースに、使い方はいろいろと。

7. 間取り

家族をどこでも感じられるように。お施主様の笑顔を考えて。

1階床面積:67.90㎡(20.49坪) 2階床面積:59.07㎡(17.83坪)
延床面積:126.97㎡(38.32坪)

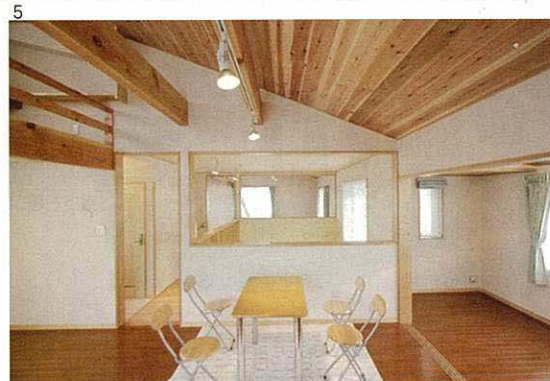
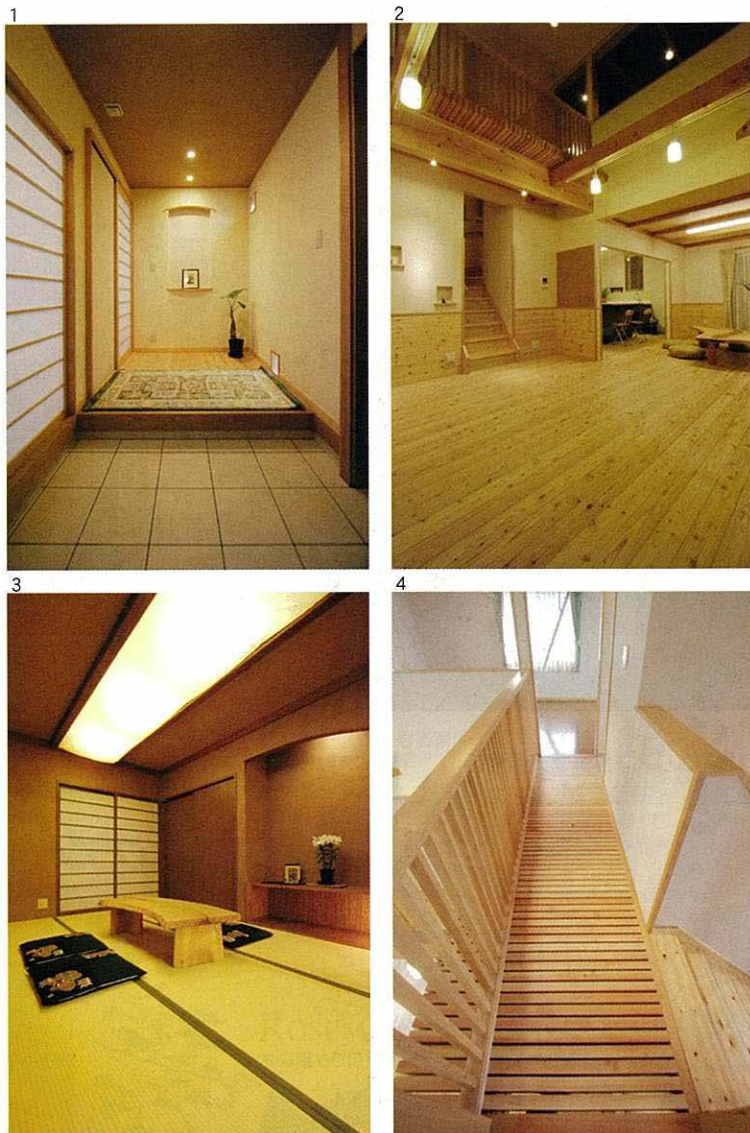
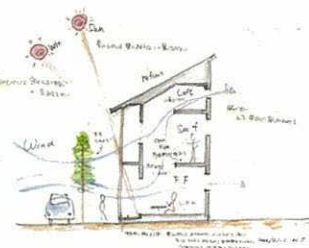


■1階平面図

■2階平面図

8. 日照計算

夏は日の暑さを遮り、冬は日の暖かさを取り込んで、自然のチカラを利用する。軒の出や外土間の広さ、植樹などを考える。



■安曇野市穂高

●営業エリア/長野県中・南信(一部)
●工法/木造軸組工法
外断熱+ハイブリッド換気

国興ホーム
株式会社 国興 田中一級建築士事務所 (有) 田中製材所

〒399-0032 長野県松本市寿南1-7-22
TEL.0263-58-2095 FAX.0263-58-2015
http://www1.odn.ne.jp/cocco/
E-mail cocco@pop01.odn.ne.jp

資料請求ハガキ番号 **7**

「想い」を「かたち」に

家族を、そして自然のぬくもりをどこでも感じることのできる場所

国興ホームは、75年の歴史を持つ田中製材所が元になっています。木のことを知り尽くし、仕入れから製材まで自社で行い、「適材適所」を考え、材木をふんだんに使い生かしています。

木造住宅は、中途半端な断熱工法や気密工法のため、木の特性を生かし切れず、耐久性を失ってしまった傾向がありました。地球環境や室内環境に配慮した快適な家づくりができないものかと、20年前前から、現在主流になりつつある「外断熱工法」と「ハイブリッド換気システム」(スカイシステム)を実践してきました。

木は、製材された後もなお生き続けています。光合成によってつくられた炭酸ガスをとどめておくことができるため、木造住宅を建築することは、「街に森をつくること」になります。そして、次の木が成長するまで材木の耐久性を高めれば、完全なサイクルが形成されます。

「外断熱工法」と「ハイブリッド換気システム」は、構造材を断熱材で保護し、十分な空気を流通させるので、耐久性と室内環境を飛躍的に向上させます。

さらに断熱層に囲まれた家を支えるために十分な耐力を持つベタ基礎は、地熱を生かし、内部にある木材などと相まって蓄熱することができます。また、木の持つ芳香成分(ヒノキチオールなど)をいかしたり、有害な物質を吸着したりすることができますので室内はいつもさわやかになります。

国興ホームのシステムは、とてもシンプルながら信州の自然の恵みを有効に活かすことができます。

お客様と出会い 気持ち共有し

そこから始まる家づくり

お施主様との出会いは、4年前、国興ホーム(以下、弊社とします)のテレビ番組づくりまで遡ります。

ご主人は映像ディレクターという立場から、番組制作するにあたって当然弊社のことを分かって頂かないといけません。撮影編集を通して弊社のことを映像としてどのように表現していくかなど打ち合わせを繰り返して、十分に私たちの家づくりに対する想い・姿勢を理解して頂いたと思っています。特に「自然環境を生かすこと」「住む人の個性が生かされていること」「ライフスタイルの変化に対応できること」に対して共感していただきました。

そういった「ものづくり」を共にした方に家づくりを頼んでいただけるとは、言うまでもなく、とてもうれしかったです。

仕事柄「ものづくり」に日頃から接しているお施主さんでしたので、家族と共に自らの手で壁を塗るなど、造ってもらうという感覚ではなく、一緒に造っていくという考えのもとに家づくりを楽しんで行われていました。

きっとこれからも想いを大切に家と付き合っていくかと思うので、

